

第5章 地域・地区別まちづくりの方針

5-1 地域・地区別まちづくりの方針の設定

(1) 拠点エリアの設定

- 本市における都市圏域の自立を支え牽引する拠点として、上野原地域拠点エリアを設定しました。
- 上野原地域拠点エリアは、行政、医療、教育、文化、商業等の多様な都市機能を有する、上野原地区中心市街地周辺および上野原駅周辺とします。具体的な位置は下図のとおりとします。
- なお、現在上野原駅周辺については、今後の地域活性化に資する用途地域を指定し、適正な土地利用を図っていきます。

＜上野原地域拠点エリアの設定方針＞

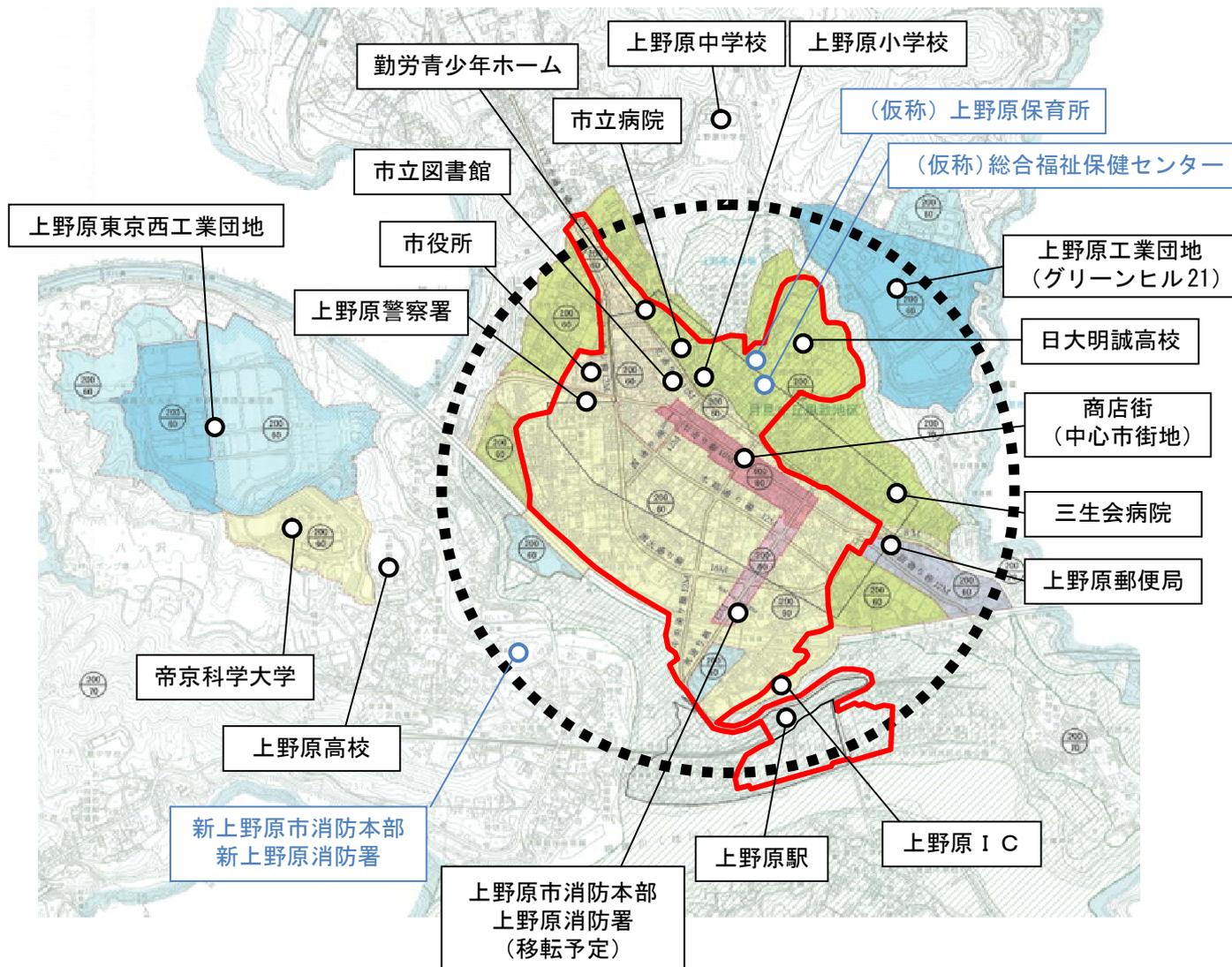
- ・上野原地域拠点エリアの設定にあたっては、山梨県都市計画マスタープランに示された「方針エリア（※1）」を踏まえ設定しました。
 - ※1 方針エリア：本市では中心市街地を中心とした概ね半径1 kmの範囲を指定
- ・「方針エリア」を踏まえ、本市の中心市街地（用途地域指定区域）を基本に設定しました。
 - * 住環境を保全する目的で指定された「第一種中高層住居専用地域」は除外
 - * 都市機能の集約化の観点から、新たな土地利用や施設を誘導しない区域を除外
- ・今後、行政機能や医療機能、保健・福祉機能等の集約を図るため、以下の区域を設定しました。
 - ①シビックゾーン（※2）
 - ②上野原駅周辺地区
 - ※2 シビックゾーン：市役所を中心とした公共公益施設が集積する市民生活の中心となる区域

◆ 地域拠点方針エリア（上野原地区中心市街地周辺）



出典：山梨県都市計画マスタープラン

◆ 上野原地域拠点エリア

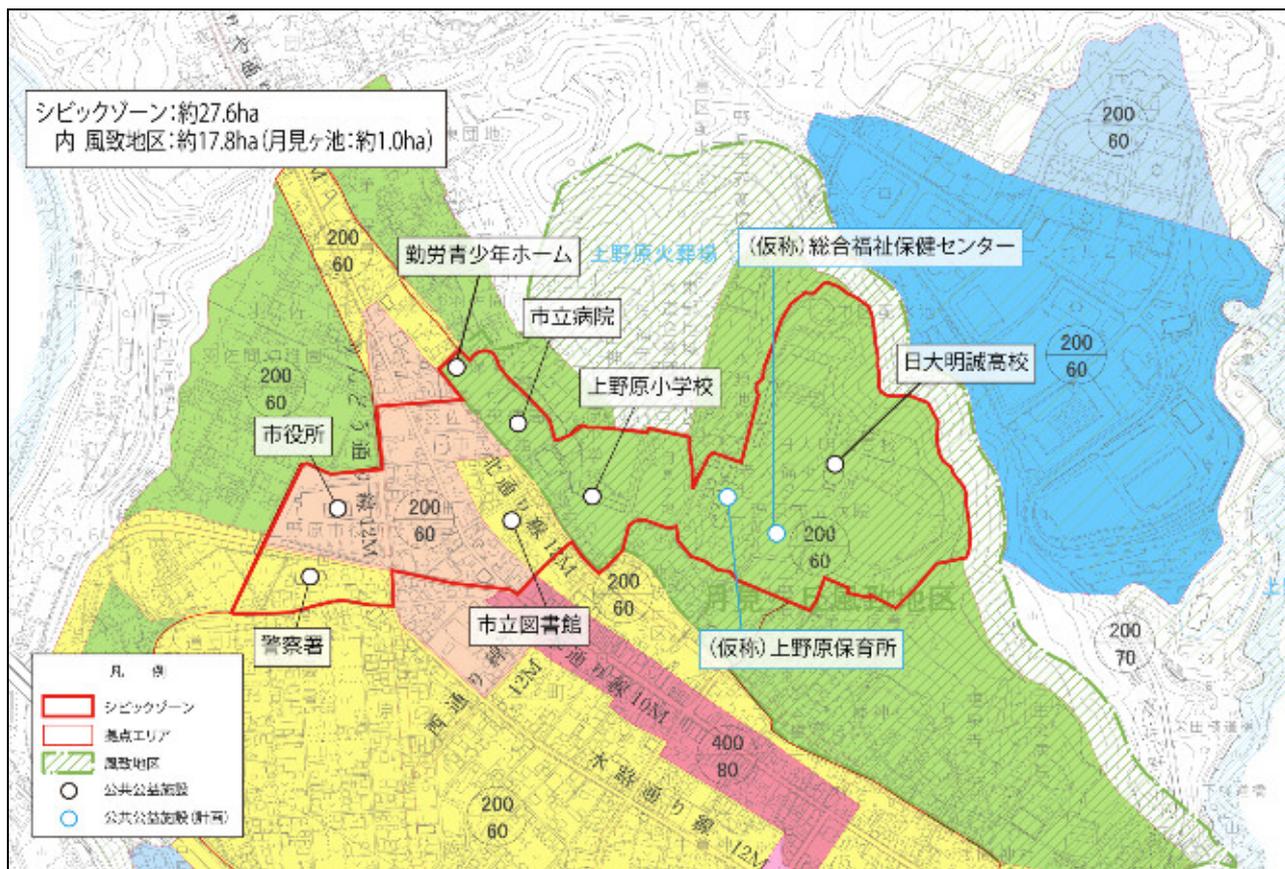


凡 例			
	地域拠点方針エリア		公共公益施設
	地域拠点エリア		公共公益施設 (計画)

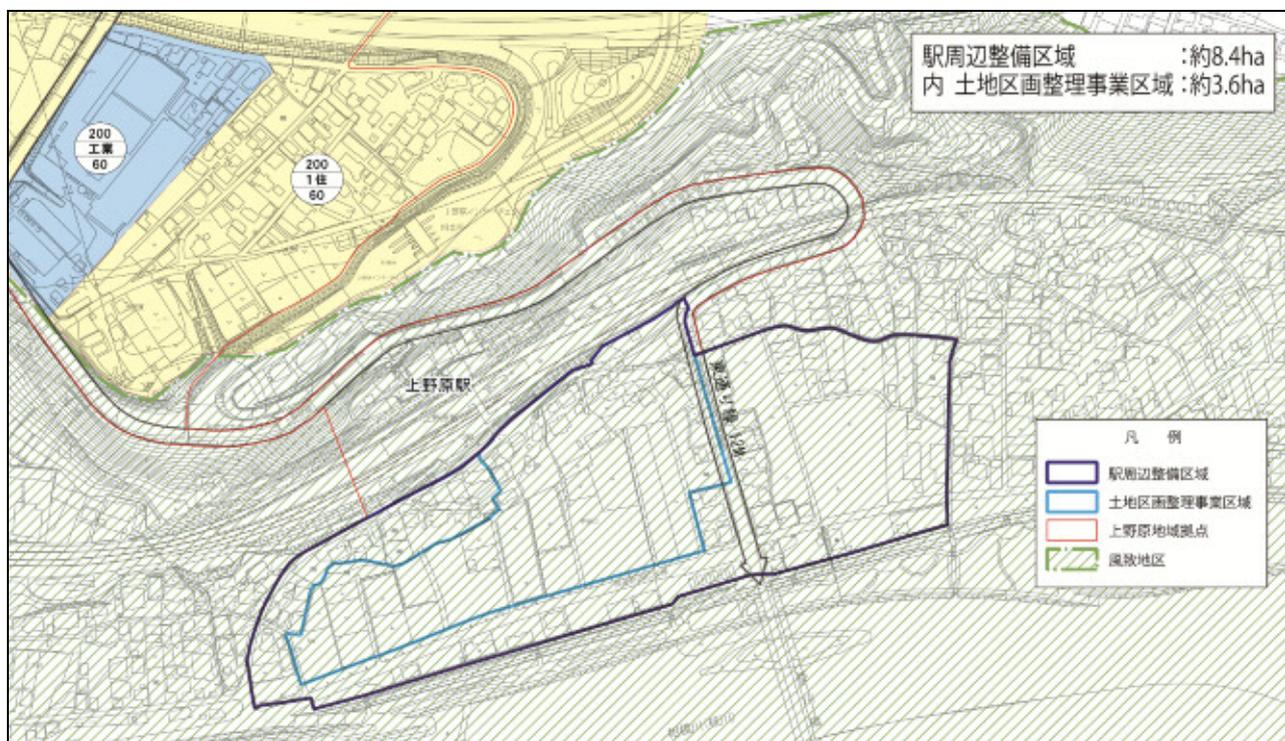


・商店街 (中心市街地)

【参考：シビックゾーン】



【参考：上野原駅周辺整備区域】



(2)地域・地区の区分および地区拠点の設定

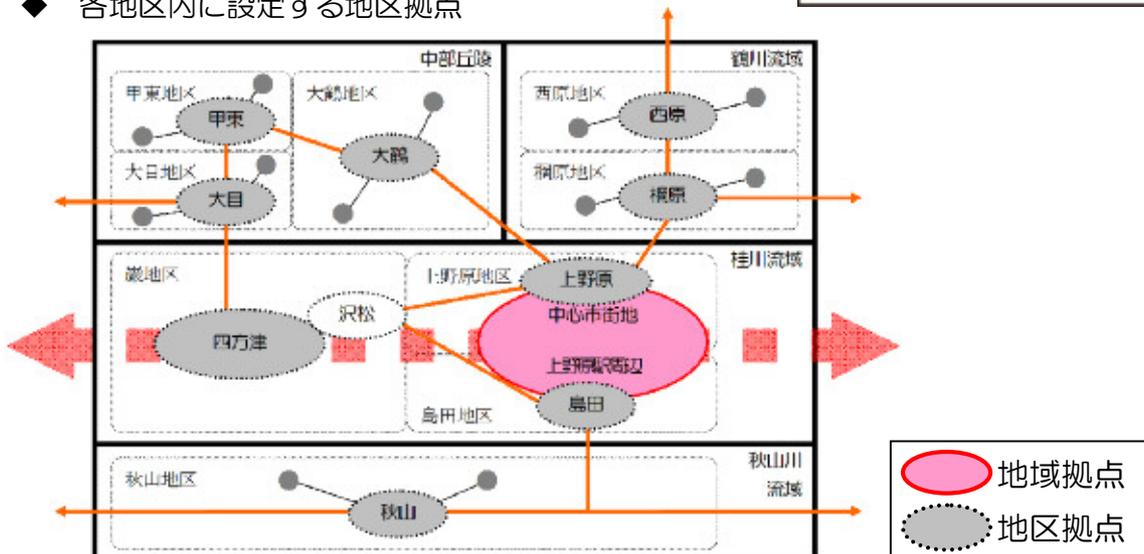
- 全体構想で示した本市の将来都市構造を踏まえ、次のとおり地域・地区の区分を設定しました。
- 地域・地区の区分は、鉄道や道路河川などによる土地利用や地形構造の形態、町村合併等の経緯や日常生活の生活圏のまとまりを考慮して、以下に示す4地域・9地区を設定しました。
- 地域・地区別のまちづくり方針は、地域・地区の特性を考慮して、都市計画区域および中心市街地を有する桂川流域地域は地区別とし、中部丘陵地域、鶴川流域地域および秋山川流域地域は地域別としました。
- 最小単位である地区には、地域の生活を支える「地区拠点」を設定し、医療、雇用および教育などの機能を整備していきます。また、上野原地域拠点エリアから発信される情報受信拠点、および地域ごとの特徴を活かした産業を促進する地区拠点として位置づけます（農業・工業・観光・サービス：6次産業化）。
- なお、巖地区の地区拠点となる四方津駅周辺では、既に住宅地が形成されていることから、生活者に対する更なるサービス向上を図る拠点形成を検討します。

◆ 本計画における地域・地区の区分

地域・地区区分				
地域	桂川流域	中部丘陵	鶴川流域	秋山川流域
地区	巖 島田 ◎上野原	大目 甲東 大鶴	桐原 西原	秋山



◆ 各地区内に設定する地区拠点



5-2 地域拠点エリアのまちづくりの方針

(1)コンパクトなまちづくりによる中心市街地の再生

○アクセスしやすい「まち」の実現

上野原駅周辺整備や都市計画道路の整備促進により、上野原駅から容易にアクセスできる活動しやすい「まち」を形成します。また、平成29年3月に供用開始が予定されている（仮称）談合坂スマートインターチェンジからのアクセス向上も図ります。

○安全と安心が確保された住みよい「まち」の実現

都市計画道路の見直し・整備促進、道路の拡幅・歩道の整備などにより、地域の方々が歩いて暮らせる「まち」を形成します。

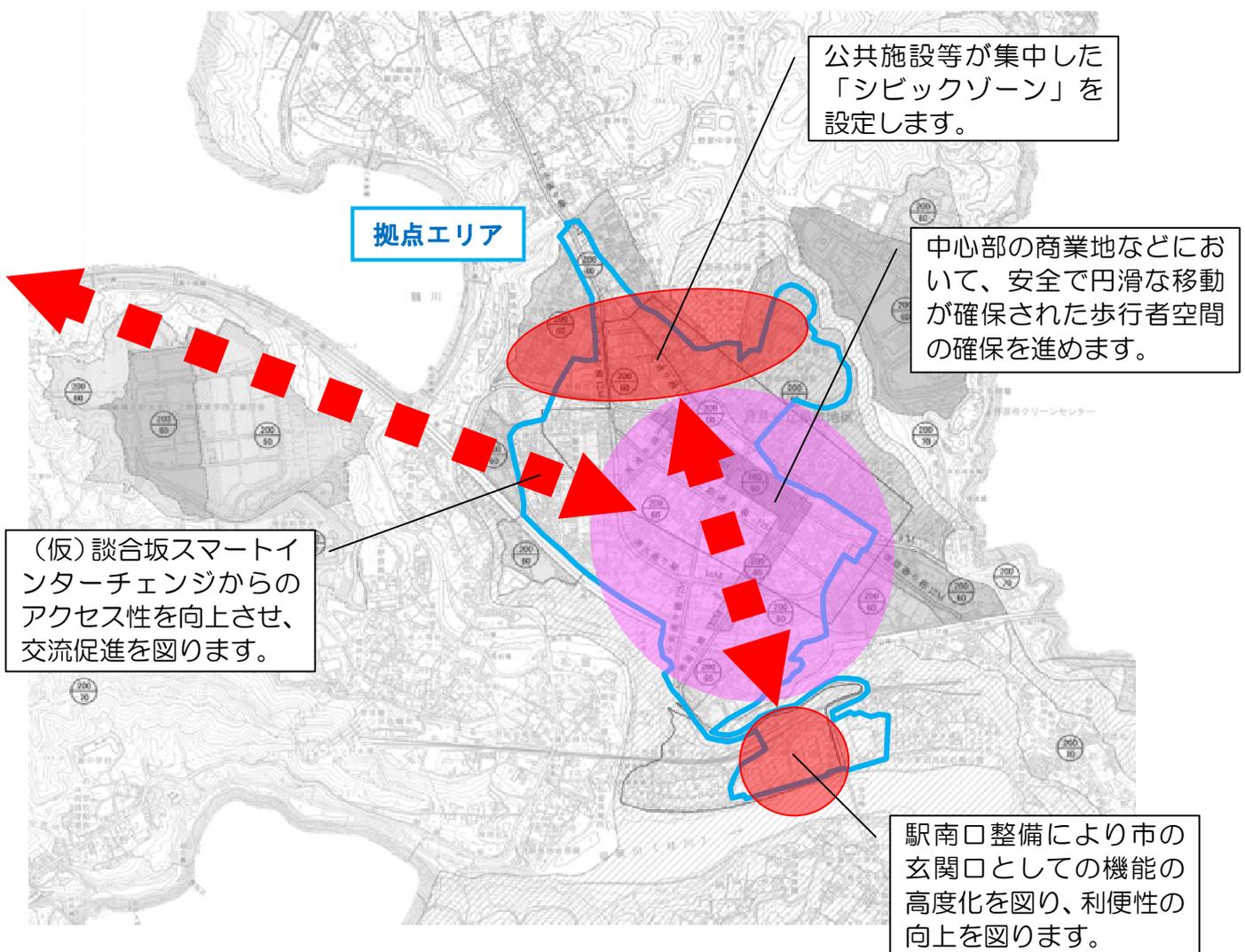
○賑わいのある「まち」の実現

シビックゾーンへの公共施設の再配置・集約化を図るとともに、事務所、商業等が集積した人々がいきいきとして賑わいのある「まち」を形成します。

○地域の個性を活かした「まち」の実現

旧甲州街道の歴史など、上野原らしい個性ある「まち」を形成します。

◆ 地域拠点エリアにおけるまちづくりの方針（イメージ）



(2) 中心市街地の整備と活性化

○本市においては、土地の合理的活用、都市空間の管理運営、地域固有の価値創出、地域経済の循環構築、市民・民間の参画の5つの取り組みにより、まちなか居住、公益施設、交通アクセス、市街地の整備などの要素が充実した中心市街地の活性化を図ります。

【活性化された中心市街地へ向けての5つの取り組み】

土地の合理的活用

- 身の丈に応じた再開発や、土地の暫定利用、定期借地権の活用など、意欲のある人が土地を有効に活用できる工夫が必要です。
- 上野原駅周辺整備やシビックゾーン整備において、土地を有効に活用するとともに、当該地区が風致地区にあたることから、市の風致地区条例や景観計画等を制定し、良好な風景の保存に努めます。

都市空間の管理運営

- まちづくりは、事業の実施で終わらずハード、ソフトの両面からマネジメントを継続することが重要です。
- 生活基盤の改善・整備といったハード整備から、風致地区条例の制定といったソフト整備を継続して行い、長期にわたるマネジメントを徹底していきます。

地域固有の価値創出

- 歴史、文化、景観、人材等の発掘と活用により、地域の人たちにとっての住み良さ、価値観を基本としながら、他にはない魅力づくりを目指すことが重要です。
- 上野原中心市街地においては、地域の特産品「酒まんじゅう」や、旧甲州街道の歴史などを継承していくことや、桂川などの良好な自然風景を資源とした観光振興なども図っていきます。

地域経済の循環構築

- 地場産業や地域活動との連携などにより、地域のヒト、モノ、カネが循環する持続可能な地域経済を構築することが必要です。
- 上野原中心市街地においては、市内他地域における林業を中心とした「6次産業」振興や、中部丘陵地域で想定する産業振興などと連携しながら産業振興の中心的役割を担います。

市民・民間の参画

- 中心市街地の再生を市民が自分たちの問題として捉え、行政との連携のもと、地域が主体となってまちづくりを進めることが重要です。
- 上野原中心市街地においては、市内他地域と同様に地域の方々が中心となってまちづくりを行う「(仮称)まちづくり協議会」などを立ち上げ、市民の積極的なまちづくりへの参画を図ります。

5-3 地域・地区別まちづくりの方針

(1)上野原地区

1)現状と課題

■地区の現状

○本地区は、本市の東部に位置し、桂川と鶴川の合流部に形成された河岸段丘上に市街地が形成されています。市街地には、市役所、文化ホール（もみじホール）、市立病院などがあり、本市の中心市街地を形成しています。地区北部は向風山へ至る緑濃い森林、丘陵地となっています。

○本地区は全域が都市計画区域に指定されており、中心市街地には用途地域が指定されています。また、用途地域以外の区域には、農業振興地域に指定されています。月見ヶ池周辺は、良好な景観維持のため、風致地区に指定されています。

○本地区の人口・世帯数は、平成22年(国勢調査)で11,266人、4,326世帯となっており、本市の人口の約40%を占め、人口が集中する地域です。しかし、近年は人口の減少や高齢化が進んでいます。

○東西方向の動脈となる中央自動車道、国道20号、(主)大月上野原線、(県)吉野上野原停車場線、南北方向には(主)上野原あきる野線、(主)四日市場上野原線が各地域を結んでいます。

○首都圏に近い立地や中央自動車道上野原インターチェンジへのアクセス性の良い地理的優位性を活かし、首都圏との生産および流通連携が容易な上野原工業団地が形成されています。

○旧甲州街道の上野原宿は、江戸時代から宿場町として栄えた歴史があり、牛倉神社例大祭などの祭り、神輿など伝統ある祭りや行事が開催されています。



■地区の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.市街地や集落の住環境、生活基盤の改善・整備
- b.中心市街地の定住促進
- c.誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立
- b.上野原駅へのアクセス強化
- c.国道20号・(主)四日市場上野原線の安心・快適な歩行空間の確保

③価値観の多様化への対応

- a.無秩序な宅地化の防止と良好な住宅環境の保全
- b.風致地区条例の制定や景観計画の策定
- c.地域分断や住環境保全、防火等を考慮した都市計画道路の見直し

④ 中心市街地空洞化への対応

- a. 中心市街地の機能強化
- b. 国道 20 号の改良による回遊性の向上
- c. 都市計画道路網の見直し検討および整備促進
- d. 生活道路の改善と交通安全の強化
- e. 快適・利便性の高い商店街づくり
- f. 空き店舗や空き地などの有効活用
- g. 歴史・文化の街並み景観の誘導

⑤ 循環型社会への対応

- a. 良好な森林・緑地資源の維持・保全・活用
- b. 八重山ハイキングコースなど登山道・遊歩道の整備
- c. 環境に配慮したまちづくりの推進

⑥ ICTと情報化社会、国際化への対応

- a. 工業団地などの既存ストックの活用



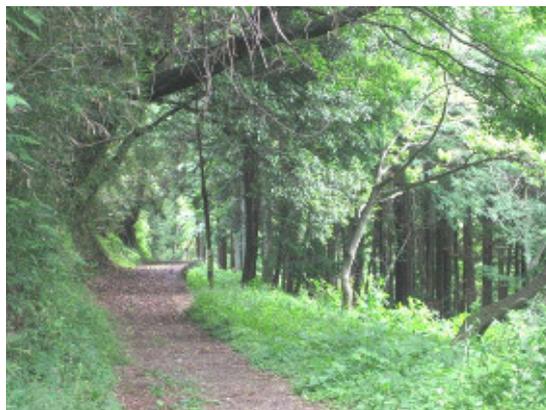
・ 中心市街地の現状

⑦ 安全・安心なまちづくりへの対応

- a. 身近な公園・広場の整備
- b. 国道 20 号の改良による防災・防火機能の強化

⑧ 地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a. 歴史を伝えるみちづくり
- b. 旧市立病院跡地および駐車場跡地の有効活用
- c. ビューポイントの整備



・ 八重山の登山道

⑨ 都市経営コスト最適化への対応

- a. 公共施設の集約化
- b. 民間活力の導入



・ 月見ヶ池の桜

◆地区の現状と課題図（上野原地区）

- ①-a.市街地や集落の住環境、生活基盤の改善・整備
- ⑤-c.環境に配慮したまちづくりの推進
- ⑦-a.身近な公園・広場の整備

- ⑤-a.良好な森林・緑地資源の維持・保全・活用
- ⑤-b.八重山ハイキングコースなど登山道・遊歩道の整備

- ⑧-b.旧市立病院跡地および駐車場跡地の有効活用
- ⑧-c.ビューポイントの整備

- ⑥-a.工業団地などの既存ストックの活用

- ③-a.無秩序な宅地化の防止と良好な住環境の保全
- ③-b.風致地区条例の制定や景観計画の策定

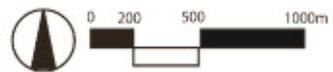
- ②-c.国道 20 号・(主) 四日市場上野原線の安全・快適な歩行空間の確保
- ③-c.地域分断や住環境保全、防火等を考慮した都市計画道路の見直し
- ⑦-b.国道 20 号の改良による防災・防火機能の強化
- ⑧-a.歴史を伝えるまちづくり

- ⑨-a.公共施設の集約化
- ⑨-b.民間活力の導入

- ②-a.地域間を連絡する道路網の確立

- ①-b.中心市街地の定住促進
- ④-a.中心市街地の機能強化
- ④-b.国道 20 号の改良による回遊性の向上
- ④-c.都市計画道路網の見直し検討および整備促進
- ④-d.生活道路の改善と交通安全性の強化
- ④-e.快適・利便性の高い商店街づくり
- ④-f.空き店舗や空き地などの有効活用
- ④-g.歴史・文化の街並み景観の誘導

- ①-c.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ②-b.上野原駅へのアクセス強化



2)将来像

■地区の将来像と目標

市の中核を担い先導的な役割を果たすまち

◆目標

- 市の中核を担う人々が集い、賑わう拠点を創出するとともに、各地域との交通ネットワークの強化を目指します。
- 市の文化、情報、地域資源など発信拠点の創出を目指します。
- 産・学・市民が連携し多様な枠組みをつくり、誰もが住みやすい生活環境の創出を目指します。

◆重点プロジェクト

○中心市街地の活性化

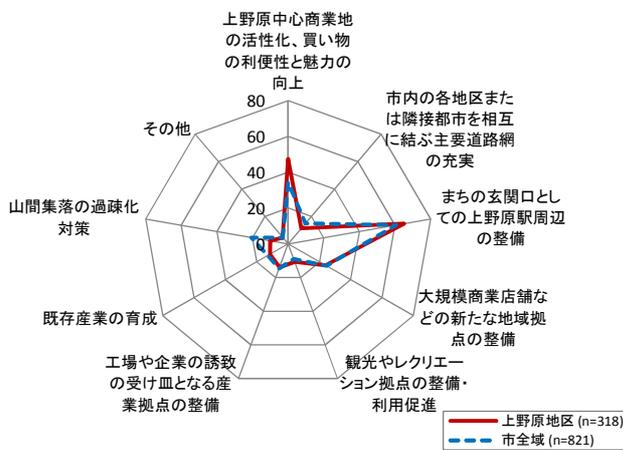
中心市街地は、行政、文化、商業等の中心として発展してきましたが、近年は中心市街地が賑わいや魅力に欠けた状況にあります。誰もが身近で安心して集える商店街づくりを進めていきます。地域の賑わい創出・活力の向上を図り、まちの活力を高めます。

○シビックゾーンの整備

市内の公共施設の再配置・集約化を図るため、シビックゾーンを設定し、市立病院跡地に（仮称）上野原保育所および（仮称）上野原市総合福祉保健センターを整備します。

◆地区住民の意向・声

Q. 市のさらなる発展のために具体的にどのような取り組みを優先的に進めるべきとお考えになりますか



【地域住民の声】

- 上野原市のテーマは、「駅とまちとの接合」だと思います。駅や駅周辺の整備はもとより、駅とまちを一体化するべく、交通機関の整備、道路、特に歩道の整備が必要だと思う。
- 上野原中心商業地の活性化は、まず、歩道の幅を広げ、歩きやすく、安全に買い物が出来るようにして頂きたいです。現状では歩道が狭く、老人など歩行に自信のない人は危険を感じています。
- 上野原は買い物をする場所が少なく、都市に向かわないと買えないものが多いです。商店街の空き店舗を利用する等、場所を増やして利便性を高めてほしいと思います。

■土地利用の方針

市の中心地区として魅力ある市街地構造を再編します

本地区は、工業や商業、住宅地、公共スペース、農地など、各々の多彩な表情が調和した計画的な土地利用の誘導を進め、市の中心地区として魅力ある市街地構造を再編していきます。

- 本地区の現行の居住地域は、特に中心市街地周辺の密集地の改善を進め、基盤整備を推進し、良好な一般住宅地として形成してきます。
- 豊かな樹林地や鶴川の水辺を背景とした住宅地については、緑と潤い豊かな地域環境と調和した住宅地を形成します。
- 本地区北部の集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- シビックゾーンは、市役所を中心に教育施設や公共施設などを集約し、誰もが利用しやすい環境づくりを進めます。また、周辺地区と調和のとれた風致地区の見直しや景観計画等の導入を検討していきます。
- 国道 20 号沿道は、中心市街地として商店街の再編、活性化を推進し、誰もが快適性や利便性を享受できる空間形成を図ります。
- 中心市街地は、住宅と店舗・業務施設などが混在する市街地として、住環境と賑わいが調和した良好な市街地の計画的誘導を進めます。
- 上野原工業団地には、工業や研究開発、流通施設などが集積されており、今後もまちの活性化に寄与するため中心市街地との連携を図ります。
- 市街地の後背に広がる森林は、景観保全の視点から計画的な保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道や遊歩道の整備活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 中心市街地の機能を強化し、自立して発展するまちの顔を創造します

①道路網の再編などにより、まちの活力を高めるみちづくりを進めていきます。

市の東西方向の大動脈である国道 20 号は、通過交通と域内交通が混在するため、交通が集中し慢性的に交通渋滞が発生しています。そのため、地域の方々が、まちなかを快適に通行することが困難な状況になっています。また、交通渋滞が引き起こす排気ガスや騒音により沿道環境を悪化しています。そのため、国道 20 号の改良など中心市街地の道路網の再編を進めていきます。

- ・都市計画道路網の見直しによる再編や整備促進（市街地の道路体系の見直しと併せ、今後の交通需要、整備効果、実現可能性の視点から、再編・見直し検討および整備促進）
- ・国道 20 号の改良（防災・防火等の道路整備による安全・安心なまちづくり）
- ・中心市街地から上野原駅への移動の円滑化
- ・道路網再編と併せた市街地の交通利便性向上（駐車場、駐輪場の確保 など）

②観光情報や産業情報など上野原地区の魅力を発信します

本地区の魅力を十分に発揮しうる新たな施設整備などを検討し、中心市街地の再生・活性化に向けた活力あるまちづくりを進めていきます。

周辺の観光情報や上野原工業団地に関する情報の発信基地として、空き店舗等の利活用を

図ります。

- ・活性化に寄与する魅力拠点の導入検討（地域振興施設、情報発信基地づくり）
- ・商店街の活性化を目指した空き店舗の活用やサイン整備

③市の中心として必要な機能を集約し、コンパクトなまちづくりを推進します

本市の中心として賑わいあふれるまちを目指し、公共施設や病院、学校など都市機能がコンパクトに集積し、各施設にアクセスしやすいまちづくりを進めていきます。人が集まることにより賑やかな中心市街地を形成します。

- ・行政・文化拠点の育成・強化（（仮称）上野原保育所や（仮称）上野原市総合福祉保健センター・コミュニティ防災センターなどの集積と充実）
- ・まちなか居住の促進（空き地や民間住宅を活用した居住促進）

④まちへの愛着を共有できる人づくりと仕組みづくりを進めます

「まちづくりは人づくり」とも言われています。住む人がまちを誇り、訪れる人にその魅力を伝え、その魅力がまた多くの人をひきつける、その連携がまちの活力につながるよう、一体的・継続的な展開に向けた人づくり・仕組みづくりを進める必要があります。

- ・（仮称）まちづくり協議会の組織化
- ・住民自身が地域を考えていく積極的な意識づくり・人づくり
- ・個々のボランティア精神をより発揮できる公的な機会づくり

2. 魅力ある商店街づくりと上野原らしい歴史・文化を活かした美しいまちなみづくりを推進します

①風土の歴史・文化などを活かした美しいまちなみ、景観づくりを進めます

中心市街地は、旧甲州街道の宿場町としての歴史性や織物によって栄えた職人のまちの表情、まちに潤いを与える斜面緑地や豊かな自然環境、地域住民の手により守られている国天然記念物である推定樹齢 800 年の上野原小学校の大ケヤキなどの大木、社寺林、屋敷林など風土を物語る資源を多数有しています。

これら地域の資源を活かした美しいまちなみづくりを進めます。

- ・歴史・文化のまちなみづくり（既存の蔵・歴史的建造物の活用、上野原宿、牛倉神社、諏訪番所跡 など）
- ・旧甲州街道のみちづくり（緑と景観のシンボル軸の形成、イメージを高めるデザインコンセプトづくり、上野原宿の案内板の整備、舗装・街灯整備、サイン・休憩スポット、まちかど広場の整備 など）
- ・市街地周辺の良い緑地資源の保全（段丘斜面緑地、古木・大木、社寺林、屋敷林、月見ヶ池、月見ヶ池の桜、富士月見ヶ池の桜、桜ヶ丘の桜、上野原小学校の大ケヤキ など）
- ・風致地区条例や景観計画の策定

3. 地域の安全・安心で快適な暮らしを確保するみちづくりを行います

①地域間を結ぶ交通体系の連携強化します

各地域との連携・交流を強化するため、地区内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

- ・幹線道路の機能強化（国道 20 号、（主）大月上野原線、（主）四日市場上野原線、（主）上野原あきる野線の改良）
- ・補助幹線道路の機能強化（（県）吉野上野原停車場線、（県）佐野川上野原線の改良）
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

②交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

地区の幹線道路である国道 20 号は多くの児童が利用する通学路と重複し、十分な安全性が確保できていない状況にあります。このような交通環境を改善し、安全で快適に利用できるみちづくりを進めていきます。

また、防災や十分な幅員を確保による延焼防止など道路整備による安全・安心なまちづくりを進めていきます。

- ・通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制、歩道の設置 など）
- ・危険性の高い交差点の改良
- ・道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）
- ・道路整備による防災対策の推進（緊急輸送路の確保、延焼防止機能の強化 など）

4. 誰もが豊かでのびやかに暮らせる住環境づくりを進めます

①周辺環境と調和した計画的な土地利用を進めます

月見ヶ丘風致地区は、今後の都市化の動向をみすえながら、無秩序な開発を抑制し、市街地の有効利用と望ましい土地利用を図るため、風致地区の見直しや景観計画の策定を進めていきます。

②生活基盤の改善・整備と暮らしやすい環境づくりを進めます

主要な生活道路の改善・整備を緊急性、必要性の高い箇所から段階的に進めます。

- ・緊急性、必要性の高い主要な生活道路の段階的改善・整備（住宅地内の狭あい道路や行き止まり道路、見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などを有効活用し、身近な公園の整備を進めます。

市街地においては、段階的に公共下水道整備を推進し、中山間集落地では地域の状況を踏まえ合併浄化槽を中心とした生活排水処理方式を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルにより自然にやさしいまちづくりを推進します。

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災・減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進



• 新しくなった市立病院



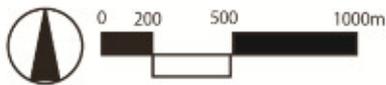
• まちなかポケットパーク（市道中央通り線）

◆まちづくり方針図（上野原地区）



【重点プロジェクト】
シビックゾーンの整備
市内の公共施設の再配置・集約化を図ります。

【重点プロジェクト】
中心市街地の活性化
地域の賑わい創出・活力の向上を図り、まちの活力を高めます。



<ul style="list-style-type: none"> 行政界 地区界 	<道路・交通> <ul style="list-style-type: none"> 中央自動車道 幹線道路 補助幹線道路 旧甲州街道 地域間連絡道路 	<土地利用> <ul style="list-style-type: none"> 住宅地 集落地 中心市街地 工業団地 シビックゾーン 森林 ゴルフ場・レクリエーション施設等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域拠点 	<その他> <ul style="list-style-type: none"> 斜面緑地の保全 水辺空間の保全と治水安全性の向上（河川） 公共下水道全体区域 登山道・ハイキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設 公共施設 郵便局 神社 社寺 山地 病院
--	---	--	--	---	---

(2) 巖地区

1) 現状と課題

■ 地区の現状

- 本地区は、本市の南西部に位置し、桂川から北部は河岸段丘に開けた住宅地、南部は高柄山などへ至る緑濃い森林・山岳地の河岸沿いに点在する集落となっています。
- 本地区の北側一帯が都市計画区域に指定されており、上野原東京西工業団地およびコモアしおつに用途地域が指定されています。また、用途地域以外の区域は、農業振興地域に指定されています。
- 本地区の人口・世帯数は、平成 22 年（国勢調査）で 6,476 人、2,514 世帯となっており、総人口に占める割合は上野原地区に次いで約 25%と高く、人口の減少も少ない地域です。高齢化率は 18%と市の平均 26%と比較して低い地域です。
- 地区北東側は、上野原東京西工業団地や帝京科学大学・県立上野原高校などの教育施設が立地しています。西側は、民間開発による大規模住宅団地（コモアしおつ）が形成され、首都圏のベッドタウンとなっています。
- 東西の動脈である国道 20 号が本地区と中心市街地や隣接する大月市を結び、南北では（県）野田尻四方津停車場線が、旧甲州街道に沿った（主）大月上野原線に接続しています。
- 四方津駅の利用者数は、近年横ばいであるものの、東京の通勤圏内に位置することや、大規模住宅団地に住む方々の利用などにより、年間約 70 万人の利用者数にのぼります。
- 地区内は、ハイキングコースや桂川・鶴川などの豊かな自然やレクリエーション資源を有しています。



■ 地区の課題

① 少子・高齢化、人口減少への対応

- a. 四方津駅のバリアフリー化
- b. 良好な地域環境と調和する計画的な土地利用
- c. 四方津駅周辺や集落地の生活基盤の改善・整備による住環境の向上
- d. 誰もが使いやすい公共交通の機能強化

② 生活行動圏の広がりへの対応

- a. 地域間を連絡する道路網の確立（集落通過区間等の狭あい区間の解消、安全・快適な交通環境の強化）
- b. 幹線道路・補助幹線道路の改良・整備促進
- c. アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルートの確保）

③ 価値観の多様化への対応

- a. 景観計画の策定

④循環型社会への対応

- a.良好な緑地資源の維持・保全
- b.環境に配慮したまちづくりの推進

⑤ICT・情報化社会、国際化への対応

- a.四方津駅前やコモアしおつの商業施設を利用した情報提供
- b.産・学・官の連携による地域振興

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.四方津駅周辺および国道20号沿道の改善・機能強化
- b.防災性の向上（消防活動困難区域解消等）
- c.市消防本部の新庁舎建設

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.廃校跡地の有効活用（旧沢松小）
- b.レクリエーション資源の有効活用

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の集約化
- b.民間活力の導入



・ 四方津駅の現状



・ 千足の林道



・ 廃校跡地の有効利用（旧沢松小）

◆地区の現状と課題図（巖地区）

- ①-b.良好な地域環境と調和する計画的な土地利用
- ②-a.地域間を連絡する道路網の確立
- ②-b.幹線道路・補助幹線道路の改良・整備促進
- ③-a.景観計画の策定
- ④-a.良好な緑地資源の維持・保全
- ④-b.環境に配慮したまちづくりの推進
- ⑤-b.産・学・官連携による地域振興
- ⑥-b.防災性の向上
- ⑦-b.レクリエーション資源の有効活用
- ⑧-a.公共施設等の集約化
- ⑧-b.民間活力の導入

②-c.アクセス路線の検討



⑥-c.市消防本部の新庁舎建設
⑦-a.廃校跡地の有効活用

- ①-a.四方津駅のバリアフリー化
- ①-c.四方津駅周辺や集落地の生活基盤の改善・整備による住環境の向上
- ①-d.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ⑤-a.四方津駅前やコミアしおつの商業施設を利用した情報提供
- ⑥-a.四方津駅周辺および国道 20 号沿道の改善・機能強化

— 行政界	□ 用途地域	■ 教育施設
— 地区界	— 河川等	● 公共施設
— 鉄道・駅	■ 集落地	● 公園
— 中央自動車道	■ 工業団地	〒 郵便局
— 国道	■ ゴルフ場	⌘ 神社
— 県道		⌘ 社寺
— 主要な生活道路		☀ 発電所
		▲ 山地
		— 主な橋梁



2)将来像

■地区の将来像と目標

市西部の中核として快適で住みよいまち

◆目標

- コミュニティを強化し連携あるまちを目指します。
- 産・学・官の連携による地域資源を活用した先進的なまちを目指します。
- 駅や各地域を結ぶ道路ネットワーク機能を強化し、安全・安心な交通環境づくりを目指します。

◆重点プロジェクト

○コミュニティの活性化による地域振興

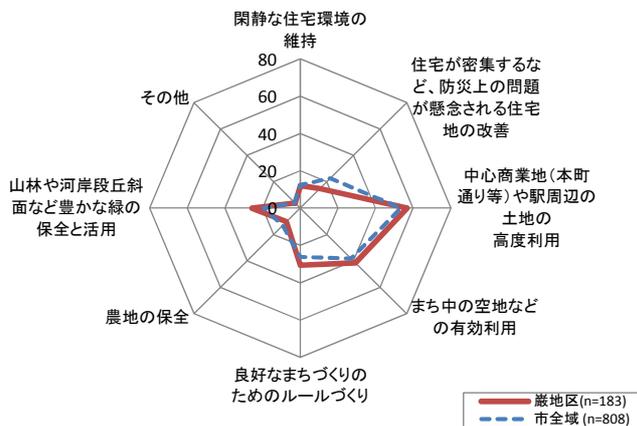
本地区は、大規模住宅団地（コモアしおつ）や高校・大学の立地などにより、人が多く集まる地域です。そうした特性を活かしたまちづくりを展開していくためにも、来訪者や市民が交流する場を設け、積極的に参加を促すことが重要です。そのため、既存施設を活用した交流の場や新たな活動拠点づくりを支援します。

○地域資源を活かした快適で住よいまちづくり

本地区は桂川が東西に流れ、南側には豊かな森林地域が広がる自然豊かな地区です。自然環境に恵まれた地形を活かし、滞在・体験型のレクリエーション資源の整備・活用、登山道、ハイキングコースの整備を行い、まちの産業活力となる資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていきます。

◆地区住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- 四方津駅は今のレトロな駅舎を活かした駅前開発ができればいいと感じます。ただ、高齢者には利用しにくい駅でもあり、バリアフリー化を希望します。
- 駅近の保育所は働くお母さんのための利便施設であるのと同時に、近隣の老人たちも子育ての手伝いができるなど、コミュニティの場となるのが良いのではないかと思います。
- 閉校した学校を利用したデイサービスを作り、上野原の住人に先生になってもらいリハビリや料理を行ったり、喫茶スペースでは無料でお茶を出して、利用者さんの話し相手になったり、ジムなどを入れて若者を呼び込んだりして活性化してはどうでしょうか。

■土地利用の方針

落ち着いた住環境の維持・向上と良好な自然環境に調和した計画的な土地利用を進めます

本地区は、桂川や鶴川、国道 20 号周辺に住宅地や集落地が集積し、その背後に森林・山岳地が広がる明瞭な地域構造をもっています。今後は、四方津駅周辺の整備を想定しつつ、落ち着いた住環境の維持・向上と良好な自然環境に調和した計画的な土地利用を進めていきます。

- コモアしおつでは、良好な住環境を維持するために策定した地区計画や建築協定の適正な運用を図ります。また、集落地は緑豊かな地域環境と調和し、一定のルールに基づいた計画的な土地利用を進めていきます
- 地区南部の集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 四方津駅周辺は公共施設が集積するため、市西部の中核となる地区拠点づくりを進めていきます。
- 上野原東京西工業団地は、工業や研究開発、流通施設などの集積・促進を図るとともに、周辺地区と一体となった活性化を図るための土地利用を進めていきます。
- 住宅地や集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 自然環境や地域資源を活かした人を呼び込むまちづくりを進めます

①豊かな自然環境の維持・保全を図ります

本地区を東西に流れる桂川は、豊かな自然環境を象徴する貴重な資源です。また、周囲の森林は、林業生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能も併せ持っています。これら骨格的な環境要素・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代に引き継いでいきます。

- ・水辺空間の維持・保全（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地区の維持・保全・活用（保安林をはじめ保水（水源かん養）、景観上重要な森林地域（森林粗放化の防止と資源維持））
- ・段丘斜面緑地の保全（コモアしおつなど市街地周辺の良好な緑地・景観資源の保全）
- ・生態系の維持・保全と中山間地域での農業の維持、鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②交流活性化へ向けた自然や地域資源を有効に活用します

四方津駅を利用し訪れる人々や地域住民など、誰もが豊かな自然環境に親しみ、また、まちの産業活力の源泉となる資源を活かし、新たな交流や地域コミュニティの醸成につながる、魅力あるまちづくりを進めていきます。

- ・滞在・体験型のレクリエーション資源活用（自然観察路の整備、グリーンツーリズム、ハツ沢発電所の桜、カタクリの花の群生地 など）
- ・登山道、ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的なたまり空間、トイレの整備、マップづくり など）
- ・周辺環境と調和した産学共同交流ゾーンの整備検討（上野原東京西工業団地の未利用

区間の立地促進、新製品・新技術の開発・展示、情報発信、雇用の活性化 など）
・産・学・官連携による地域振興（大学、工業団地内の企業等による連携）

2. 四方津駅周辺の環境整備の推進とともに地区コミュニティの向上を図ります

①四方津駅周辺の環境整備を推進します

四方津駅は、主に通勤・通学の利用者が多いものの、集落地から駅までのアクセス道路や駅前広場が狭小であるといった状況にあります。また、近年登山客も多数訪れるなど旧甲州街道の史跡散策と連携させた周辺整備も求められています。そのため、四方津駅を基点とした環境整備を進めていきます。

・四方津駅周辺の機能強化とバリアフリー化の促進（駅前広場整備 など）

②地域の一体感を高めるコミュニティづくり支援します

来訪者や市民が交流する場を設け積極的に参加を促すために、既存施設を活用した交流の場や新たな活動拠点づくりを支援します。

・コミュニティづくりに向けた既存施設の有効活用（廃校跡地や学校開放を活用した多目的利用の場の創造、児童館の設置、利便性の高い集会施設の整備推進検討）
・地域資源を活かしたコミュニティの醸成（祭り・行事の保全と育成、まち全体のイベント開催など）
・協働のまちづくりを発信する活動拠点づくり（地域情報の収集、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）

3. 地域を結ぶ環状ネットワーク道路を強化し、安全・安心な交通環境づくりを進めます

①環状ネットワーク道路の機能を強化します

地区内の急峻な地形に立地する集落などでは、災害時において道路寸断に伴う各集落の孤立化が懸念されています。したがって、各地域との連携・交流を強化するため、地区内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

・地域間を連絡する道路の改善・機能強化の推進（国道20号、（県）野田尻四方津停車場線、狭あい区間の解消）
・アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルートの確保（コモアしおつ・中部丘陵地域方面））

②地域を結ぶ道路網を確立します

各地区との連携・交流を強化するため、地区内の主要幹線・幹線道路の機能強化に努めます。特に、国道20号は規制雨量を超えた降雨の際に通行止めとなる場合があるため、幹線道路としての十分な機能確保について、整備促進を図ります。

・国道20号の改良整備と機能強化
・地域間を連絡する補助幹線道路の強化（（県）野田尻四方津停車場線の改良・整備（狭あい区間の解消） など）
・橋梁の改築（各集落を結ぶ老朽化した橋梁の改築検討）
・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

③交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

地区の幹線道路や補助幹線道路は多くの児童が利用する通学路と重複し、十分な安全性が確保できていない状況にあります。このような交通環境を改善し、安全で快適に利用できるみちづくりを進めていきます。

- 通学路等の安全性の確保（国道20号の歩道整備 など）
- 道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 基盤整備の整った住みよいまちづくりを推進します

①住宅地や集落地に対して良好な緑地資源の保全を進めていきます

八ツ沢区・松留区や四方津駅周辺は、今後の住宅・宅地の需要動向を把握しながら、無秩序な開発、宅地化を抑制し、望ましい住空間の形成を図るため、都市基盤形成と一体的に計画的な土地利用を進めていきます。

また、コモアしおつ外周や上野原東京西工業団地周辺などの良好な緑地は、景観計画の策定等による保全を検討していきます。

②地域で暮らすために必要な生活機能を確保し、安心した暮らしを提供します

既存施設の有効活用により、生活に必要な機能を確保し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、暮らしやすさの向上を図ります。また、安心して生活できる住環境の確保に向け、災害時に消防自動車の侵入ができない消防活動困難地域の解消などまちの防災性の向上に努めます。

- コミュニティづくりに向けた既存施設の有効活用（廃校跡地や学校開放を活用した多目的利用の場、児童館の設置、利便性の高い集会施設の整備推進検討）
- 消防活動困難区域の解消などによるまちの防災性の向上
- 市消防本部・消防署を中心とした防災機能の集約・強化

③誰もが住みやすい住環境づくりを推進します

身近な生活道路の整備を進めます。

- 補助幹線道路の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- 交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

住宅地においては、公共下水道整備を推進し、中山間集落地では地域の状況を踏まえ合併浄化槽を中心とした生活排水処理方式を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルにより自然にやさしいまちづくりを推進します。

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災・減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携推進、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

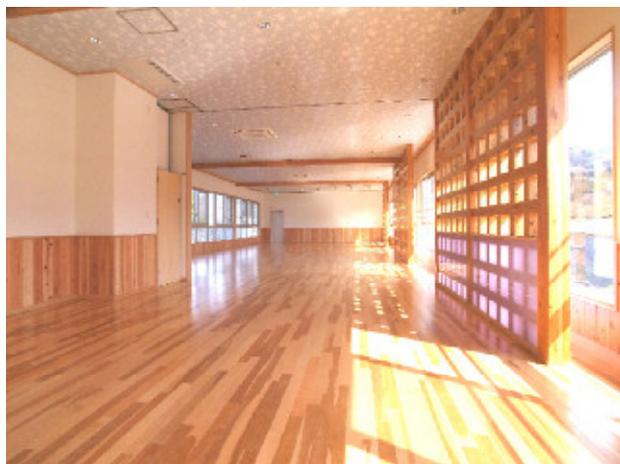
- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進



• 新しくなった巖保育所



• 地場産の木材を活用した保育室

◆まちづくり方針図（巖地区）

【重点プロジェクト】

地域資源を活かした快適で住みよいまちづくり
 まちの産業活力となる資源を活かした魅力
 あるまちづくりを進めていきます。



【重点プロジェクト】

コミュニティの活性化による地域振興
 既存施設を活用した交流の場や新たな
 活動拠点づくりを支援します。

<ul style="list-style-type: none"> — 行政界 - - - 地区界 	<p><道路・交通></p> <ul style="list-style-type: none"> — 中央自動車道 — 幹線道路 — 補助幹線道路 (構想路線) — 地域間連絡道路 	<p><土地利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 住宅地 ■ 集落 ■ 工業団地 ■ 文教 ■ 森林 ■ ゴルフ場・レクリエーション施設等 ● 地区拠点 	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 市街地の斜面緑地の保全 ■ 水辺空間の保全と治水安全性の向上 (河川) ■ 公共下水道全体区域 ■ 登山道・ハイキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育施設 ● 公共施設 ○ 公園 〒 郵便局 〒 神社 〒 社寺 ⚡ 発電所 ▲ 山地 ⌋ 主な橋梁
--	---	---	--	--

(3)島田地区

1)現状と課題

■地区の現状

○本地区は、本市の南東部に位置し、地区の北側は上野原駅をはじめ公共施設が集積する市街地、南側は緑濃い森林・丘陵地を縦断する河川や道路に沿って集落が点在する地区となっています。

○本地区は全域が都市計画区域に指定されていますが、用途地域が指定されていないため、全域が農業振興地域に指定されています。また、桂川周辺は景観保全のため、風致地区に指定されています。

○本地区の人口・世帯数は、平成22年（国勢調査）で2,251人、808世帯となっており、他地区と同様に人口は年々減少する傾向にあります。地域内の高齢化率は30%と本市の平均である26%より高くなっています。

○主な幹線道路は、南北方向に（主）四日市場上野原線が通り、中心市街地と市南部地域、相模原市を結んでいます。

○地区の北側に位置する上野原駅は、県内でも常に上位（平成24年度3位、平成23年度2位）の利用者数があり、山梨県の東の玄関口として利用されています。ただ、利用者数は、近年横ばい状態にあります。また、上野原駅は河岸段丘の既成市街地の下に位置し、中心市街地と駅との高低差が著しく、南北の連携に地形的な制約が生じています。

○地区内には、桂川の鮎釣りやゴルフ場、登山道、ハイキングコースなど、自然とふれあうレクリエーション資源があります。

○地区内には、市民プールをはじめ、野球場やテニスコート、河川公園といったスポーツ・レクリエーション施設が充実しています。



■地区の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.交通結節点としての上野原駅の機能強化（駅周辺整備など）
- b.良好な地域環境と調和する計画的な宅地化誘導
- c.将来を担う世代等の定住促進
- d.誰もが使いやすい公共交通機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立（狭あい区間等の解消など）
- b.幹線道路の機能強化
- c.中心市街地やインターチェンジとのアクセス強化
- d.桂川橋の狭小幅員改善



・桂川橋の現状

③価値観の多様化への対応

- a.上野原駅周辺の低利用・未利用地の活用
- b.風致地区条例の制定や景観計画の策定

④循環型社会への対応

- a.森林・緑地の維持・保全・活用
- b.環境に配慮したまちづくりの推進

⑤ICTと情報化社会、国際化への対応

- a.上野原駅前を利用した情報発信

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.防災性の向上（消防活動困難区域解消等）

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.桂川の水辺空間の維持・保全・活用
- b.交流を育むレクリエーション資源の活用
- c.ビューポイントの整備（景観性向上）
- d.緑の核・安全・安心な拠点となる公園づくり
- e.廃校跡地の有効活用

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の再配置・集約化
- b.民間活力の導入



・上野原駅（南口）の現状



・上野原駅（北口）の現状



・桂川新田地区近隣公園の現状

◆地区の現状と課題図（島田地区）

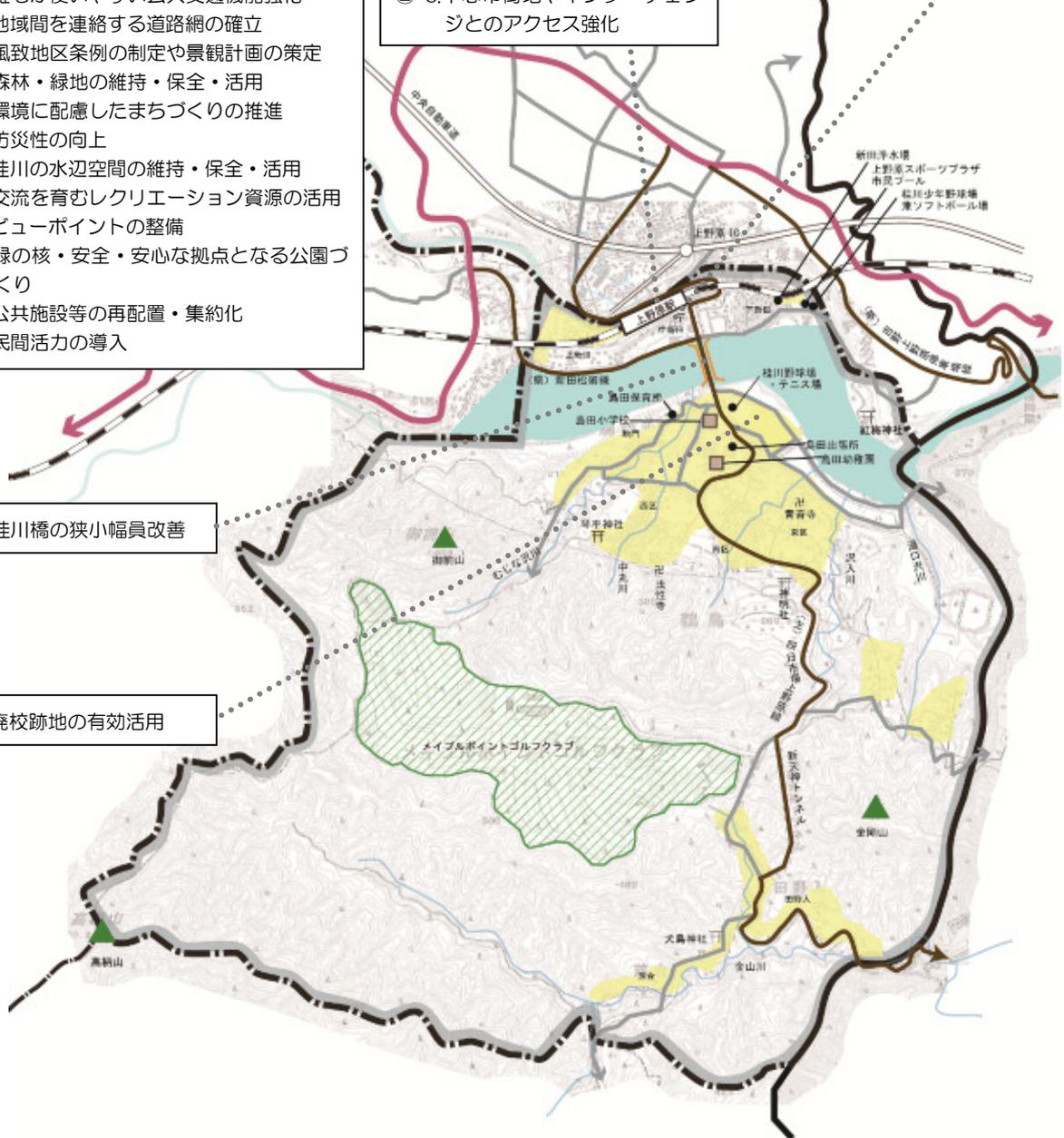
- ①-b.良好な地域環境と調和する計画的な宅地化誘導
- ①-c.将来を担う世代等の定住促進
- ①-d.誰もが使いやすい公共交通機能強化
- ②-a.地域間を連絡する道路網の確立
- ③-b.風致地区条例の制定や景観計画の策定
- ④-a.森林・緑地の維持・保全・活用
- ④-b.環境に配慮したまちづくりの推進
- ⑥-a.防災性の向上
- ⑦-a.桂川の水辺空間の維持・保全・活用
- ⑦-b.交流を育むレクリエーション資源の活用
- ⑦-c.ビューポイントの整備
- ⑦-d.緑の核・安全・安心な拠点となる公園づくり
- ⑧-a.公共施設等の再配置・集約化
- ⑧-b.民間活力の導入

- ①-a.交通結節点としての上野原駅の機能強化
- ②-b.幹線道路の機能強化
- ②-c.中心市街地やインターチェンジとのアクセス強化

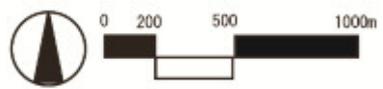
- ③-a.上野原駅周辺の低利用・未利用地の活用
- ⑤-a.上野原駅前を利用した情報発信

②-d.桂川橋の狭小幅員改善

⑦-e.廃校跡地の有効活用



- | | | |
|-----------|--------|--------|
| — 行政界 | — 河川等 | ■ 教育施設 |
| — 地区界 | ■ 集落地 | ● 公共施設 |
| — 鉄道・駅 | ■ ゴルフ場 | 〒 郵便局 |
| — 中央自動車道 | | 〒 神社 |
| — 国道 | | 〒 社寺 |
| — 県道 | | ▲ 主な山地 |
| — 主要な生活道路 | | ≡ 橋梁 |



2)将来像

■地区の将来像と目標

自然の美しさと住み良さを兼ね備えたまち

◆目標

- 保全と開発が調和する緑豊かな潤いあるまちなみを目指します。
- 市の玄関口となる上野原駅周辺整備と桂川の潤いある水辺を活かしたまちづくりを目指します。
- 道路網の見直し、整備の推進、公共交通機関の利便性向上を図り、誰もが快適に移動できる交通結節点を目指します。

◆重点プロジェクト

○上野原駅の交通結節点としての機能強化および周辺地区の整備推進

本市の玄関口でもある上野原駅は、県内では常に上位の利用者数のある駅ですが、中心市街地から離れた場所に位置し、十分な広さの駅前広場もなく、アクセス道路も貧弱であるなど交通結節点としての機能は十分ではありません。駅前広場や駐車場の整備、エレベーターの設置等による歩行支援施設の整備、バリアフリー化を進め、交通結節点としての機能強化を図ります。

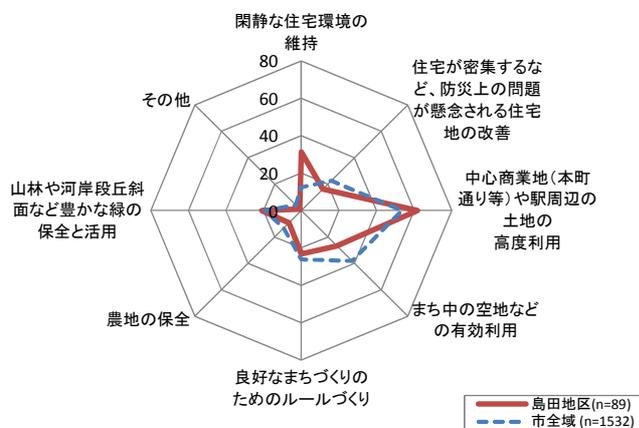
また、土地区画整理事業を活用した駅前広場やアクセス道路、駅周辺の道路整備と併せ、駅周辺地区の市街化を進めます。また、上野原駅および周辺地区の調和のとれた土地利用を進めるため、農業振興地域および風致地区の見直しを進め、用途地域の指定や地区計画等の導入を検討していきます。

○計画的かつ段階的な宅地化誘導

本地区は、桂川の水辺や里山の風景、緑地資源に囲まれた風光明媚な風景を有しています。また、風致地区に指定され水辺など良好な自然を維持した開発が進められています。この良好な地域環境と調和する住宅地整備を計画的、段階的に推進します。

◆地区住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- ・山梨県の東の玄関口として、上野原駅南口の開発を行い、エレベーターの設置やバスターミナル、タクシー、送迎用自動車のスペースの整理を行う。また、周辺には駅駐在所設置、小児一時預かり所、大型店舗、市役所機能郵便局の窓口設置、コンビニ、スーパーマーケット、駅通勤者の為の駐車場の設置、駅利用者の利便機能（カフェ喫茶店等）および住宅エリアも設けていただきたいです。
- ・上野原は都会に近い良い場所なので、若い世代が住みやすく、通勤にも便利であるよう駅前開発を早急に進めていただきたい。若さあふれる、活気で健康的なエネルギーあるまちにするには、どうしたらよいか皆で知恵を絞り一日も早い着工をお願いします。

■土地利用の方針

都市機能の強化と水辺や森林・緑地と調和した居住空間・レクリエーション空間の形成を進めます

本地区は、桂川の潤いある水辺空間や背後の森林・緑地空間と一体となった潤いある住宅地、集落地の形成を図るとともに、上野原駅周辺整備や桂川周辺の水と緑のレクリエーション空間づくりなど、中心市街地とは異なる市の玄関口にふさわしい賑わいのある交流の場として整備を進めます。

- 豊かな樹林地や桂川の水辺を背景とした住宅地については、低層住宅を主体とした緑と潤い豊かな地域環境と調和した住宅地を形成していきます。特に、上野原駅周辺は、現行の風致地区の見直しと計画的かつ段階的な土地の高度利用を図ります。また、それ以外の区域については、緑地資源の保全と良好な景観を損なわないよう、一定のルールに基づいた計画的な土地利用を進めていきます。
- 田野入区などの集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 上野原駅周辺については、用途地域の指定による住宅と商業施設などが立地する市街化を進めるとともに、周辺地区と調和のとれた地区計画等の導入を検討していきます。
- 桂川周辺の河川公園は、レクリエーション施設等の充実、水面の有効活用を図り、スポーツ・レクリエーションの場としての整備を進めます。
- 市街地や集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. まちの玄関口となる上野原駅周辺整備を進め、利便性が高く魅力あるまちづくりを進めます

①上野原駅周辺整備と交通結節点としての機能を強化します

河岸段丘の急峻な地形構造上に位置する上野原駅は、地形的制約から車も人も駅へのアクセスが制約されている状況にあります。今後は、駅周辺の整備を進め交通結節点としての機能を高めるとともに、中心市街地や他地域とのアクセス向上を図り、誰もが利便性や魅力を感じる玄関口として整備を進めます。

- ・上野原駅周辺のバリアフリー化の推進（昇降施設等の設置 など）
- ・上野原駅周辺の基盤整備の推進（南口駅前広場およびアクセス道路の整備、駐車場・駐輪場の確保、バス・タクシーの南口への機能移転、北口環境整備）

②賑わいと交流を高める上野原駅周辺の施設整備と駅前の顔づくりを進めます

上野原駅周辺は、多くの人が行き交う市の玄関口としての魅力に欠けている状況にあります。今後、桂川周辺のスポーツ・レクリエーション施設の整備と一体となった駅周辺のまちづくりを推進します。また、周辺の地区と調和のとれた用途地域指定や風致地区の見直しを図るとともに、地区計画の導入等により、民間活力が参入しやすい環境を整え、市の玄関口にふさわしい賑わいのある交流の場の整備を進めます。

- ・土地区画整理事業による低利用地・未利用地の有効活用
- ・上野原駅周辺への計画的な住宅・商業施設整備の促進
- ・将来を担う世代などの定住促進（通勤通学の利便性向上など首都圏への通勤圏内であると

いう地の利を活かした定住促進対策の推進と子育て支援の強化 など)

- ・上野原駅周辺整備により設置する施設を利用した情報発信（地域情報の収集、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成 など）

2. 豊かな自然に多くの人が集う、自然と共生した楽しい交流の場づくりを進めます

①桂川周辺の潤いある水辺空間や緑、生態系を維持・保全します

地区を東西に流れる桂川は、豊かな自然環境を象徴する貴重な資源であります。また、保水（水源かん養）等の機能も併せ持つ周辺森林は、風光明媚な景観の重要な要素ともなっているため、この河川や森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代に引き継いでいきます。

- ・段丘斜面緑地の保全（市街地周辺の良い緑地・景観資源の保全）
- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地域の維持・保全・活用（保水（水源かん養）、荒廃した森林の再生と活用）
- ・生態系の維持・保全と農業を支援するための鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②親水空間や森林資源を活用し、多くの人が集い楽しむ場を創造します

本地区は、上野原駅を玄関口として多くの人々が自然とふれあうことを体感できるよう、スポーツ・レクリエーション機能を高めるなど、水辺とまちなみが交わる空間づくりや、新たな交流と活動が生まれる場を創造していきます。

- ・桂川の周辺整備（河川公園と一体的なスポーツ・レクリエーション施設 など）
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間、トイレ整備、マップづくり など）
- ・ビューポイントの整備

3. 利便性の高い交通網整備を推進します

①地域を結ぶ道路網の確立と機能強化を図ります

各地区との連携・交流を強化するため、地区内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。地区北側は上野原駅周辺整備に併せた道路交通網の機能強化を図るとともに、（主）四日市場上野原線は、中心市街地と本地区を結ぶ重要な路線として整備促進を図ります。

- ・幹線道路・補助幹線道路の機能強化（（主）四日市場上野原線（桂川橋を含む）、（県）新田松留線 など）
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間地域への交通手段の強化）

②交通環境を改善し、人にやさしいみちづくりを進めます

道路は、暮らしに最も密着した公共施設ですが、地区の幹線道路である（主）四日市場上野原線は多くの児童・生徒が利用する通学路と重複し、十分な安全性が確保できていない状況があります。このような交通環境を改善し、安全で快適に利用できるみちづくりを進めていきます。

- ・安全・安心な交通環境の確保（通学路等の安全性の確保、危険性の高い交差点の改良）
- ・道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 安心・快適に暮らせる住環境づくりを進めます

①良好な地域環境と調和する計画的な宅地化を誘導します

良好な景観を有する本地区は、今後の住宅・宅地の需要動向を把握しながら、無秩序な開発・宅地化を抑制し、望ましい住空間の形成を図るため、景観計画等の策定に併せ風致地区のあり方についても検討していきます。

- ・風致地区条例の制定や景観計画の策定

②地域で暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

- ・廃校跡地の有効活用
- ・コミュニティセンターの活用や子育て支援の充実

③安心・快適な住環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

- ・補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

給排水施設の整備・促進を図ります。駅周辺においては、段階的に公共下水道整備を推進し、その他の区域では地域の状況を踏まえ合併浄化槽を中心とした生活排水処理方式を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルにより自然にやさしいまちづくりを推進します。

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

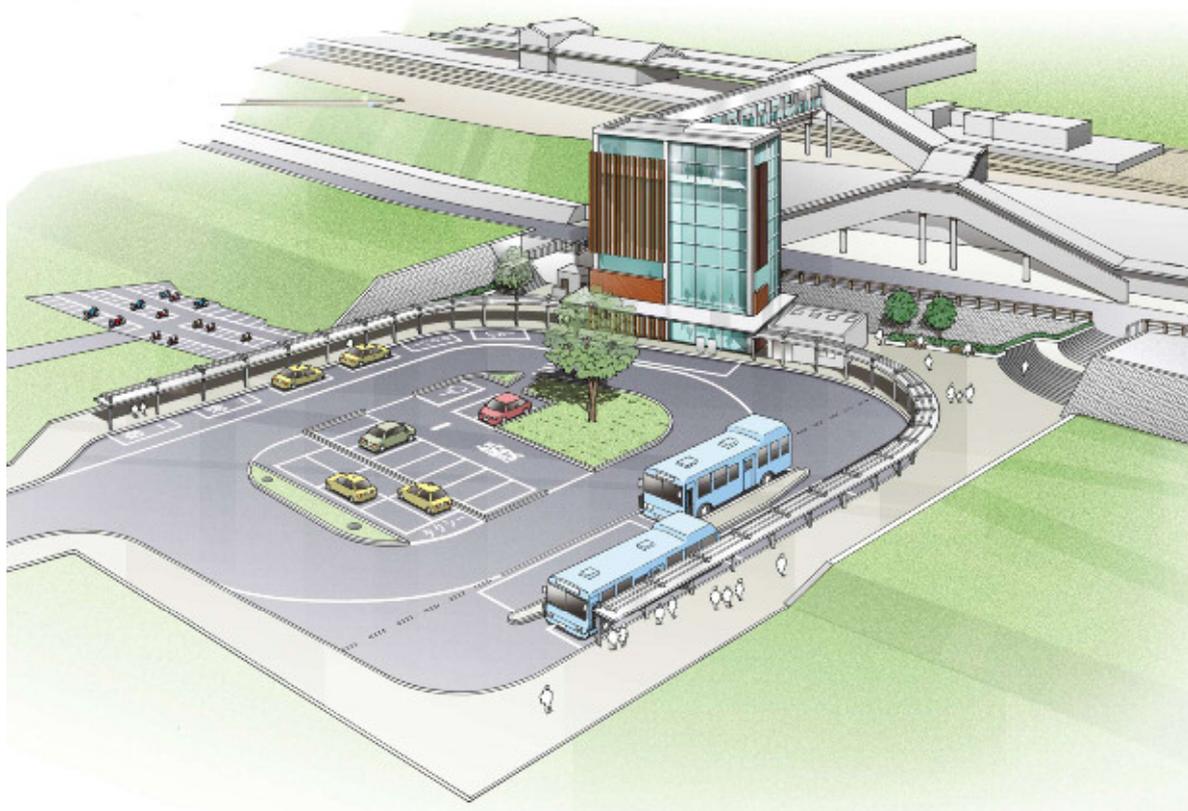
- ・防災拠点の強化（指定避難場所）
- ・緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替となる補助幹線道路の充実）
- ・地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- ・集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進



• 上野原駅南口周辺整備イメージ

◆まちづくり方針図（島田地区）

【重点プロジェクト】

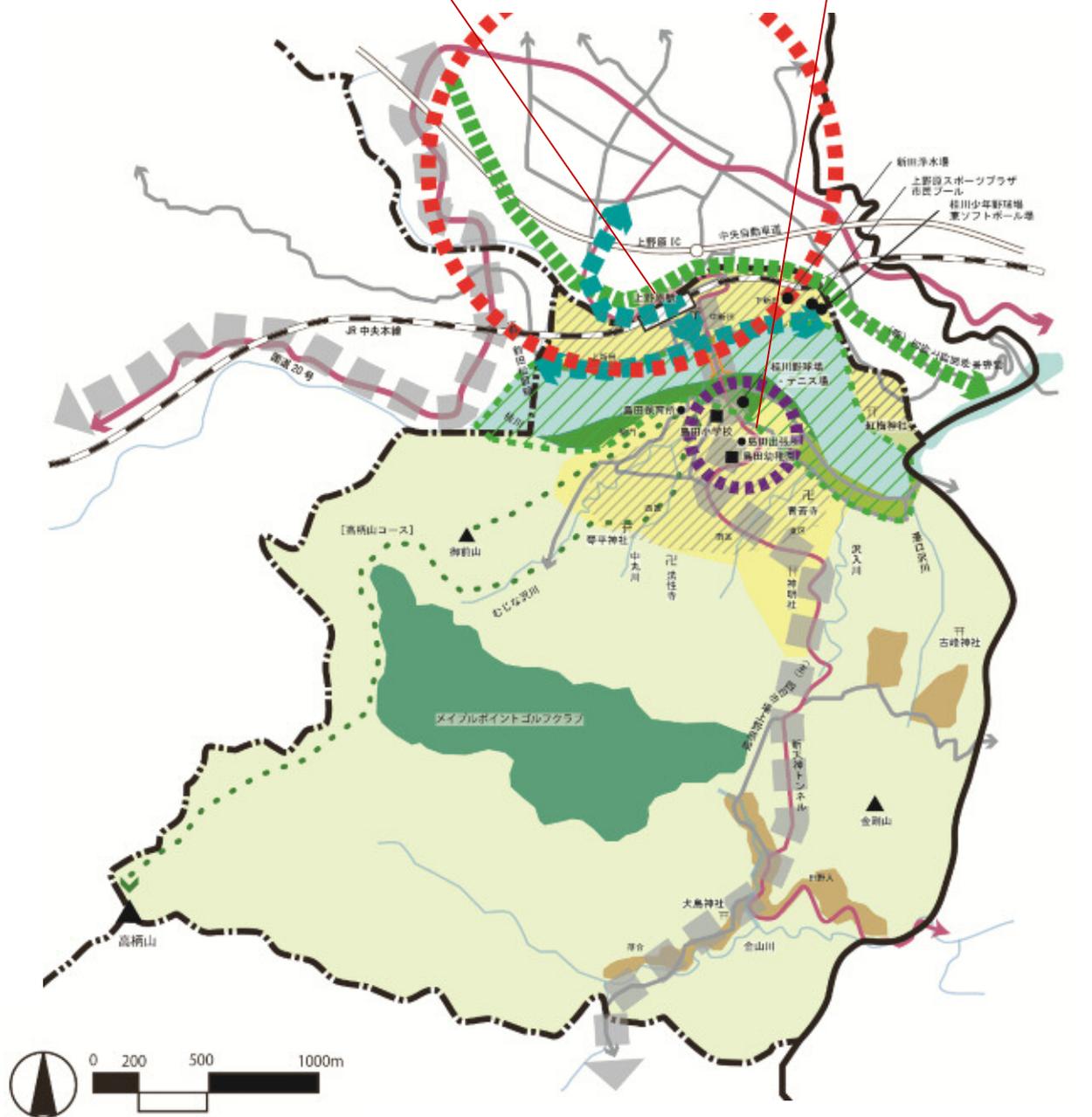
上野原駅の交通結節点としての機能強化
および周辺地区の整備推進

駅前広場や駐車場の整備、エレベーターの設置等による歩行支援施設の整備、バリアフリー化を進め、交通結節点としての機能強化を図ります。

【重点プロジェクト】

計画的かつ段階的な宅地化誘導

良好な地域環境と調和する住宅地整備を計画的、段階的に推進します。



<ul style="list-style-type: none"> — 行政界 - - - 地区界 <道路・交通> — 中央自動車道 — 幹線道路 — 補助幹線道路等 ■ 地域間連絡道路 	<ul style="list-style-type: none"> <土地利用> ■ 住宅地 ■ 集落 ■ 主な公園・緑地 ■ レクリエーション施設等 ■ 森林 ■ ゴルフ場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域拠点 ● 地区拠点 ● 観光レクリエーション拠点 (緑の拠点) 	<ul style="list-style-type: none"> <その他> ■ 斜面緑地の保全 ■ 水辺空間の保全と治水 安全性の向上(河川) ■ 緑と景観のシンボル軸 /// 公共下水道全体区域 ● 登山道・ハイキングコース ○ 橋梁 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育施設 ● 公共施設 〒 郵便局 卍 神社 卍 社寺 ▲ 山地
---	---	---	--	---